

[03_05]九州大学大型計算機センター広報 : 3(5)

<https://doi.org/10.15017/1467970>

出版情報 : 九州大学大型計算機センター広報. 3 (5), pp.1-42, 1970-10-12. 九州大学大型計算機センター
バージョン :
権利関係 :

機器構成の変更について

センターニュース (No.4) で通知しましたが、8月下旬に機器構成の一部を変更しました。今回の変更で増加した機器の主なるものは次の通りです。

●磁気コア (32KW)	1モジュール
●磁気ドラム (450KW)	1台
●XYプロッター	1台

これらの機器の増設により、次のような効果が期待できます。

1. 処理能力の向上

従来のように、磁気ドラム1台、磁気コア合計128KWの容量では、マルチプロセッシング・マルチジョブの効果がそれほど発揮できず、主としてジョブ種別がB、Cのジョブの返却が遅れていました。又、マルチジョブとはいえ、せいぜい2ジョブまでしか主記憶に入らないので、マルチプロセッシングも名ばかりといってもよいくらいでしたが、これからは主記憶に入るジョブ数が、3個になることも多く、加えて制御プログラム作業用のドラムが2本になったこととあいまって、かなりの改善となります。

2. T.S.S.の実験の本格化

今回の機器変更により、T.S.S.の制御プログラムを使用しているときでも従来程度(64KW)の主記憶を利用者用に解放できるので、T.S.S.の実験を本格的に開始できるようになりました。

3. XYプロッターが使用可能となった

多数の利用者からXYプロッターの増設希望が出されていましたが、ようやく使用可能となりました。使用方法については、センターニュース、広報等でお知らせします。

現システムは従来のシステムと比較し、主として処理能力の向上を目的としております。T.S.S.の実験に欠くことのできない私用ファイルに提供する大記憶の増設は、本年度末または来年度初頭に行なう計画でおります。なお、システムの機器構成替えをしても、見かけ上、センター利用方法には変更はありません。特に主記憶の増加により、より大きな計算を実際にはできるわけですが、当分の間、標準のジョブで使用できる主記憶の上限は64KWと変更のないことに御注意下さい。